

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190400016		
法人名	有限会社 羽島企画		
事業所名	グループホーム ママーズの家		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町駒塚1043		
自己評価作成日	平成25年12月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2190400016-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成26年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの在宅生活の延長として、入居者一人ひとりが維持されている能力を大切に、役割を持って自分で出来るという喜びや、生きがいを感じて頂けるさりげない支援を目指しています。また、心豊かに笑顔で穏やかに過ごして頂く為の外出、行事、イベントも力をいれています。その様子をご家族にお便りで知らせるとともに、居室や廊下に掲示し家族来所時には、ご家族との楽しいひと時を過ごすきっかけ作りとし、ご家族との絆も大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して7年になるホームで、母体理念『寄り添う介護、思いやりをカタチに・・・』の下、ホーム独自の理念『共に地域で生きていくために』を掲げ、利用者の思いを聞き、安心して暮らせるお手伝いをさせていただき気持ちで支援にあたっている。地域の方や家族の助言・協力が多くあり、避難訓練への見学参加や地元行事への参加など、地域を巻き込んだ積極的な取り組みを行っている。常に清潔を心掛けて隅々まで掃除が行き届いており、玄関や廊下などに四季折々の花が活けられ、季節を感じる事が出来る。会社内で様々な勉強会が開催され、すべての職員に向上心が持てるような働く環境が整えられている。職員は利用者への思いやりの気持ちを大切にし、親しい中にも誇りを傷つけない対応を行っている。利用者・職員に穏やかな表情や笑顔が見られ、温かい雰囲気が印象に残るホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄りそう介護 思いやりをカタチに…」 「共に地域で生きて行くために」の理念の基、職員一同ミーティング毎に話し合い、ケアに努めている。	法人の基本理念をもとに、地域密着型の意義や役割を踏まえて、ホーム独自の理念が作られている。会議で日頃のケアを振り返り、意見交換しながら、理念を具体的に話し合い共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の役員さんや民生委員さんと会話して、祭り、子供神輿、ふれあいサロン会で交流を深めている。また、地域の消防訓練に参加している。	地域のふれあいサロンや老人会に積極的に参加したり、ホームに招待してお茶会を開くなど、行ったり来たりの関係が継続して行われている。子供会のおみこしに立ち寄ってもらい交流を、深めることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供110当番への登録、災害時の避難場所として地域の方々に利用して頂ける場所として登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、ご家族、市の職員、地域包括センター、民生員、元区長、代表取締役、管理者の参加があり、ホームの様子や取り組みを報告し意見を頂き、サービス向上に努めている。	2か月に一度の会議は参加メンバーによる活発な意見交換の場となるよう、事前に準備し開催している。地域の役員が市の担当者に意見を言ってもらったり、地域へ発信してもらうなどサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が参加する運営推進会議や、介護相談員の来訪時に、実情の報告や意見交換の場として課題解決に積極的に取り組んでいる。	市の職員は毎回運営推進会議に出席があり、ホームの現状や利用者の状態を把握してもらっている。毎月介護相談員の訪問があり、利用者からの意見をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修において、身体拘束について全職員が学ぶ機会を設け、弊害も理解している。ミーティングで拘束しない為に話し合いをしている。	身体拘束に関する研修会や勉強会を行い、全職員は拘束の意義を理解している。身体拘束だけでなく、心の拘束も考えた言葉かけや接し方をしている。玄関は内側からのみ施錠してあるが、自分で明けて出入りする利用者もある。職員はそっと見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修、ミーティングで高齢者の虐待防止について研修を行い、遵守するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ち職員に説明しながら、入居者の支援に活用できる為に研修、ミーティングを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書を丁寧に説明し、入居者や、ご家族様の不安、疑問を尋ね、納得頂ける説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は介護相談員や傾聴スタッフと会話する機会を設け、ご家族は面会時と年2回の家族会の面談時に、意見を頂き運営に活かしている。	定期的な介護相談員の受け入れや、面会時に意見の言い易い環境、雰囲気作りに配慮している。利用者を交えた会話の中から、それぞれの思いを汲み取るよう努めている。貴重な意見は会議等で話し合い改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで、意見交換を行ったり、申し送りノートに記録して議題に上げ、職員から出た意見を、ホーム全体で検討する方針で取り組んでいる。	定期的な管理者との面談の他に、本部の人事担当者とも面談している。小さな気付きや職員の気持ちの揺れなどを見逃さないように、管理者は絶えず聞く耳を持つように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の業務を把握し、定期的に個人面談を行い職員が向上心を持って働けるための環境づくりをし、職員家族への配慮も含めた対応を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングは全員が参加し、法人研修は交代で参加し、外部研修も内容を見極め、参加するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会があり、事業所・医師会との合同学習会や、交流に参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や求めていることを把握する為、寄り添いながら毎日の声掛けや見守りを大切にし、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の苦労や経緯に耳を傾け、サービスの利用状況を把握し、ご家族の気持ちを受け止める信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の実情と要望を基に支援を見極め、可能な限りの対応を検討しつつ、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日同じ目線で会話し、役割を持って頂き、職員と仕事を一緒に行うことで、互いに必要な存在であると感じながら過ごして頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活状況を写真入り便りで伝え、ご家族の思いに寄り添いながら、支援していくように努めている。また面会時に本人の思いを聞いて頂き、出来る事は一緒にお手伝いして頂くようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年々馴染みの関係が減少しているものの、交流が続くためにご家族、知人、友人に呼びかけ支援している。	友達への電話や馴染みの美容院、昔行っていた店の饅頭が食べたい等、それまでの人や場所との関係が途切れない様支援している。転居された元利用者と一緒に外出したり、遊びに来られお茶を飲むこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間や食事、レクリエーション、協働作業の時間には、職員と一緒に、多くの会話を持つようにしている。入居者同士の関係が、円滑になるように働き掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方にも近況を尋ね、必要に応じてご希望に応えられるように相談、支援体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日頃の言動、つぶやき、要望をしっかりキャッチし、表情、会話、対話から読み取り受け止め、申し送りノートや、介護記録、日報へ記載し、ミーティングで職員が共有し検討している。	職員一人ひとりが利用者について知っていること、感じることをシートに記入し、まとめ上げたものを全員で共有している。また対応後の利用者の様子や表情から、「本人にとってはどうか」という視点で再確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、馴染みをご家族、主治医、ケアマネジャー等から情報収集したり、日常の会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムを把握し、日内の変化も把握し、記録を残しながら、小さな動作からも出来ることを、見落とさないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、ご本人の声やご家族の思いを傾聴し、情報を共有しながら、ミーティング時に具体的な対策が出来るプラン作成を心掛けている。	利用者それぞれのサービスについて毎日評価を行い、定期的にまとめている。また職員が毎日の申し送りやカンファレンスで気付きや意見を出しており、評価のまとめと併せてプランの見直しに反映させている。	利用者個別ファイルには日々必要となるものを揃え、保管すべき大切なものやケアには直接関係ないものと区別することが望まれる。今一度検討していただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の体調及び状態や職員の気づきを、個々の介護記録や業務日誌に記載し、ケアの実践を評価し、職員間で共有しプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族の状況や要望に向き合った暮らしを継続するために、外出、外泊の要望に応えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力により、ふれあいサロン会、子供会との交流会、秋祭りでの子供神輿を迎え、地域の方々との協働を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム主治医は認知症に深い理解を持ち、毎月2回の往診の他、常に連絡相談できる体制ができている。専門医受診については、家族との連携を図り柔軟かつ適切な対応ができるように支援している。	本人家族の希望するかかりつけ医を受け入れており、現在は協力医と同じく二週間に一度の往診がある。本人の状態および診察結果は往診記録にて情報を共有し、適切な医療連携体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長は看護資格を保有しており、入居者の健康管理、状況変化に対する相談、支援が受けられるようにしている。夜間も状況に応じて対応できるように連絡体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム主治医との連携をはかり、入院時は医療機関へ支援方法、記録の情報提供、情報交換を行い、退院に向け病院関係者と検討、相談で協力し合い、安心して治療が受けられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会の個人面談の際、支えるご家族の状況、協力の可否などご意見を傾聴し、ホームで出来る事、医療行為の必要性や、主治医の判断などを説明している。急変した場合に直ちに対応できる連携を図っている。	入居契約時に、看取りについてのホームの方針を本人家族に伝えている。入居後は利用者の状態変化に応じて話し合いを重ね、本人家族の希望、協力体制、医師の意見をふまえ最善の対応を支援している。また勉強会を行い、職員の教育にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は医師による医療教室に参加し、体験習得したり、急変などに対応している。夜間はマニュアルに添い、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の消防署の協力のもと、避難経路の確認、消火器使い方の訓練を年2回行っている。地域近隣の方への協力依頼を行っている。また職員の連絡網の作成をしたり、地域消防団との連携を図っている。	消防署立会いの下施設全体訓練と、ホーム単独で夜間を想定した訓練を年2回行っている。訓練後には、消防署のアドバイスや参加者の意見を基に、より確実な避難体制を職員で検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人研修で「プライバシー」「接遇」について知識を高め、職員の意識向上をはかり、家族的な関係を重視しつつも、馴れ合いにならないよう、そして入居者と常に同じ目線であることを大切に支援している。	職員は利用者と親しくなることと、馴れ合いになることの違いを理解しており、利用者を敬いさり気ない対応を行っている。管理者は職員の不適切な対応がみられた時には、利用者から離れた所で職員に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に複数の選択肢を提案し、思いや希望を自己にて決定して頂き、職員側のきめたことを押し付けないようにして支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、一人ひとりのペースを大切に希望に添って、ご本人の意思で行動し、その人らしいその日の過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力で馴染みの美容院へ外出をされたり、2ヶ月に1回のヘアカットをご利用されている。衣類は本人の意向で決めて頂いたり、意向を取り入れ一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1~2回手作り食事会や、手作りおやつを取り入れ一緒に食事作りをしたり、野菜の皮むきなどのお手伝いをそれぞれの入居者に役割を持って頂き行っている。	食事作りの過程で利用者ができそうなことを職員で話し合い、調理の下ごしらえや味付けなどに関わってもらっている。介助の必要な方が多くなっても職員は極力一緒に食事をとり、楽しい時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事内容や、時間の変更により入居者のペースに合わせるようにしている。食事量、水分量の記録をし必要に応じてメニューや形態を変える工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、個々の能力に応じて見守り、介助にて口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、消毒を毎晩行っている。義歯の不具合は歯科医へ相談し適切な義歯を使っていただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄チェック表」を使用して、職員間で分析し声掛け・誘導のタイミングを図り、尿意の無い入居者はさりげなく誘導している。	職員それぞれの気付きを全職員で共有し、地道な誘導、検討を繰り返し、自立支援に取り組んでいる。オムツ使用から自力で排便ができるようになった方もおり、成功体験が本人の自信や誇りの維持にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取量、排泄チェック表を参考に乳製品を取り入れたり、体操、腹部マッサージを取り入れたり、自然な排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調を考慮しながら、いつでも入浴して頂ける支援をしている。無理強いないで、気長に声掛けさせて頂き、気持ちよく入浴して頂ける支援をしている。	ホーム浴室と併設サービス浴室のどちらも使用できる利点を活かし、本人の状態や希望に合わせていつでも入浴できる体制が整っている。職員と一対一で、ゆっくり話しをしながら寛ぎの入浴の時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の行動による疲れ具合や、前夜の睡眠状態により、個々に休息を取って頂いたり、体操、レクリエーションなどを取り入れ、生活のリズムを作って頂くように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、個人の病歴、薬の副作用などを職員が確認、把握したうえで服薬確認を行い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々能力を活かし、入居者同士で協力、役割分担しながら、達成感や喜びを感じて頂く。洗濯、台拭き、季節感のある作品作り、カラオケ、楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設のデイサービス車を利用して、季節を感じて頂ける外出を計画している。外出には家族やボランティアさんの協力があり、入居者との普段の会話の中から外食のメニューを決め、楽しんで頂くための支援をしている。	天気の良い日には近所を散歩し、外気に当たって五感を刺激し、気分転換を図っている。四季折々の花見やお参り等全員で遠出をすることも多く、帰りの外食も含め利用者の楽しみごととなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かりお買い物外出時は、其々お財布、巾着袋へお金を入れ、購入時は自分で支払して頂き、見守りと介助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親族から、お友達の方から電話を頂いたり、ご本人の希望で電話を掛ける事を希望された時は、会話出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が色塗りされたカレンダーや家族と一緒に取った写真をはり、寂しさの緩和を図り、またリビングの上に季節の花を飾り自由に差し替え出来るようにして暖かい雰囲気環境づくりに心がけている。	ホームの随所に花が活けられ、時期に合わせた利用者の作品が飾られている。居室が並ぶ廊下の壁にはホーム行事や利用者の写真が並べられ、家族や本人に安心感を与えている。掃除が行き届き、臭いもなく、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、2~3人の談笑、一人で休みたい時、外の風景を眺めたい時ご利用頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの生活や家族の写真や、ご本人の作品を飾ったり、仏壇ご主人の写真、化粧品等ご希望に合わせ馴染みのものを置かれ、落ち着かれ心地よく過ごせる居室づくりをご家族ともに相談しながら支援している。	亡くなったご主人の写真を居室にかざり、毎朝お仏飯とお水を供えている利用者や、裁縫道具を持ち込み、縫い物を楽しんでいる利用者もいる。本人の能力に合わせ、掃除や衣替えを職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に花の名前とご本人の名前とあり、ご本人の目線でわかりやすいように花を飾らせて頂いている。		